

編集後記

現在の大学をめぐる日本の環境は、なかなか厳しいものがあります。私の研究テーマであるビジネススクールは、とくに厳しい環境に置かれています。日本にビジネススクールは110校程度あり、公開されている入試倍率の平均は1.5倍程度です。この入試倍率を、ビジネススクールが労働市場や社会からどのような評価を受けているかを示す基準とみなし、ビジネススクールの区分を試みると、「優良ビジネススクール」と「限界ビジネススクール」に分けることができます。ビジネススクールの半数以上が定員割れである可能性を考慮すると、そのほとんどが、準限界および限界ビジネススクールに陥っているようです。

このような厳しい環境にありながらも、優良ビジネススクールが今後もしたたかに生き抜いていくのは間違いありません。ぜひ、この優良ビジネススクールを見習って、日本の多くの大学が今後の厳しい日本の状況を生き抜いていくことを願ってやみません。

このたび、『和光経済』第49巻第2号が出来上がりました。皆様のご投稿とご協力、ありがとうございます。お礼を申し上げるとともに、今後のさらなるご投稿をお待ちしております。

(2016年12月 金 雅美 記)

和 光 経 済 第49巻 第2号

2017年1月10日 印刷

2017年1月16日 発行

発 行 者 半 谷 俊 彦
制 作 八 千 代 出 版

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-2-13

発 行 所 和光大学社会経済研究所

〒195-8585 東京都町田市金井町2160